

にんじん出荷最盛期

～山一農産物集出荷施設で共選果～

山形支店管内の厚目内地区では、9月中旬より共選出荷向けのにんじんの掘り取り作業がピークを迎えている。同施設には、黒石市の高原野菜の産地である厚目内地区で収穫したにんじんを1日に約4～7トン洗浄・選果し、約300箱（1箱10^{kg}）～500箱を箱詰めしている。箱詰めされたにんじんは個選入荷のものと併せて、県内市場や福島・東京方面などに出荷される。

収穫作業は10月下旬まで行われ、共選・個選合わせて約3万箱（1箱10^{kg}）の出荷を予定している。



洗浄したにんじんを選別する作業員

台湾へ青森りんごの情報を発信

～台湾の流通関係者とマスメディアが施設を見学～

一般社団法人青森県りんご対策協議会は台湾の流通関係者及びマスメディアを招聘し、青森りんごの消費拡大を図る「青森りんご産地招待事業」を実施している。

9月19日には、販売関係者ら約10人、10月3日には新聞社、雑誌社といった主要メディアの関係者ら約10人が黒石基幹支店管内の黒石中央りんごセンターを訪れた。

J A職員が施設の概要を説明。貯蔵冷蔵庫や選果作業などの見学、りんごの試食をした。



J A職員の説明を聞く台湾マスメディア

適期収穫で品質統一

～ぶどうの収穫出荷始まる～

J A津軽みらい尾上ぶどう部会は9月20日、尾上青果センターで平成30年産スチューベンの山選果基準会を開いた。生産者約10人が出席。出荷規格などについて確認した。

尾上青果センターの齋藤寿徳統括はスチューベンの市場情勢や収穫基準などについて説明。糖度18度以上を目標とし、まんべんなく着色しているものは糖度に関係なく収穫するよう呼びかけた。尾上グリーンセンターの吹田聖子指導員は生育状況や収穫時の注意点などについて説明。「収穫が早すぎても遅すぎても、しおれや脱粒などが発生し商品性を損ねてしまう。品質を統一させるためにも適期収穫に努めてほしい」と呼びかけた。

また26日にはシャインマスカットの出荷説明会が開かれ、収穫時期や等級、階級の規格について説明。サンプルを手に取り規格の確認をした。

両品種とも収穫は9月下旬から10月上旬にピークを迎え、10月下旬まで収穫される。



スチューベン山選果基準会



シャインマスカット出荷説明会